

大震災・復興ニュース(第35報)

平成23年12月16日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり放射性物質の測定結果をお知らせします。

- 1 測定年月日 平成23年12月12日～12月14日
- 2 測定分析機関 東北大学,(財)日本分析センター,(財)日本冷凍食品検査協会
- 3 測定結果 放射性ヨウ素はすべて不検出であり、放射性セシウムも国が定めた暫定規制値を下回り、安全性に問題がないことが確認された。

水産物(漁獲日 平成23年11月19日～12月9日)

(単位:ベクレル/kg)

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
クロソイ	宮城県沖	2.5	乾ノリ(加工)	宮城県沖(仙台湾)	不検出
ミスダコ	宮城県沖	不検出	乾ノリ(加工)	宮城県沖(松島湾)	不検出
ヒラメ	宮城県沖	4.6	乾ノリ(加工)	宮城県沖(松島湾)	不検出
スケトウダラ	宮城県沖	3.8	乾ノリ(加工)	宮城県沖(石巻湾)	不検出
アカガレイ	宮城県沖	3.2	乾ノリ(加工)	宮城県沖(石巻湾)	不検出
シロサケ	三陸南部沖	不検出	ナマコ	石巻湾	不検出
マアジ	三陸南部沖	5.1	アワビ	網地島沖	不検出
マサバ	三陸南部沖	9.6	キハダマグロ	太平洋沖合	7.2
スルメイカ	三陸南部沖	不検出	メバチマグロ	太平洋沖合	3
マガレイ	宮城県沖	10.1	ピンナガ	太平洋沖合	3.9
スズキ	宮城県沖	4.2	サンマ	三陸北部沖	不検出
スズキ	仙台湾	7.5			

放射性物質の値は漁獲日における値を示す。

食品衛生法の規定に基づく食品中の暫定規制値

放射性ヨウ素 2,000ベクレル/kg 放射性セシウム 500ベクレル/kg

<水産漁港部からのお知らせ>

養殖施設の災害査定

- ・12月19日から個人養殖施設の災害査定が行われる。
- ・査定日程は19日から22日まで。対象は管内の漁協・各支所の被災した養殖施設が対象。

津波被害を受けた養殖施設



塩釜市魚市場水揚状況 (ト, 千円)

月	平成23年		平成22年		対比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
1	1,405	653,198	822	395,109	171%	165%
2	916	439,655	1,281	575,277	72%	76%
3	246	153,638	1,147	576,893	21%	27%
4	221	168,510	629	423,588	35%	40%
5	2,172	842,007	2,222	1,016,680	98%	83%
6	2,158	753,917	1,491	737,792	145%	102%
7	2,723	893,859	986	555,937	276%	161%
8	2,754	1,500,362	1,755	978,080	157%	153%
9	1,930	963,116	1,841	1,270,003	105%	76%
10	2,939	1,635,613	1,690	1,331,789	174%	123%
11	3,032	1,434,229	1,404	1,145,493	216%	125%
累計	20,496	9,438,104	15,268	9,006,641	134%	105%

塩釜市魚市場の水揚状況

塩釜市魚市場の11月の水揚は、まぐろ延縄船やその他刺網を中心に、数量で3,032トン、金額で1,434,229千円となり、前年同月比数量で1,628トンの増、金額で288,736千円の増となった。

主な漁業種類はまぐろ延縄、大目流し網、その他刺網、せん漁業(かご等)で

あり、まぐろ延縄によるメバチマグロやピンチョウマグロの微増、せん漁業でタコの漁獲増により、漁船による数量で122トン、金額で2,781千円の微増となったが、陸送による加工用冷凍魚(マトウダイ、アオメエソ等)の上場により合計数量・金額とも前年同月より大幅増となっている。

ノリ第二回入札結果

11月12日(月)、今漁期二回目となるノリの入札会が県漁協塩釜総合支所の乾ノリ集出荷場で開催された。今回の数量は前回の4倍近くとなる12,710千枚(前年同期の18.9%)、平均落札価格は12.5円/枚(前年同期の140%)、最高値は七ヶ浜支所松ヶ浜湊浜産で、21円/枚となった。

2 管内の復興に向けた動き

<トピックス>

(株)佐浦がフォークリフトを寄贈

浦霞で有名な(株)佐浦が県漁協塩釜市浦戸支所に対し、2.5t積みフォークリフト1台、ノリ用アンカーロープ60本を寄贈した。

これは(株)佐浦による「復興へ 頑張ろう!みやぎ-浦霞発、日本酒のチカラ」プロジェクトとして、浦霞1本の売り上げから5円を地元塩釜市と東松島市の復興のための寄付金とする活動の一環である。

フォークリフト等の資材は11月14日に搬入され、現在カキの水揚げ作業等で使用されている。



寄贈されたフォークリフト

ワカメの水揚げ始まる

県内に先駆けて、12月16日より塩釜市漁協のワカメの集荷作業が始まった。

岸壁では、生産者7名によるワカメ970kgが集められ、計量とボイル作業が行われた。これからはほぼ毎日集荷が行われる。

現在ワカメは80~100cmに達し、生長は例年より1週間程度遅れているが、穴あき症等も発生しておらず、高単価が期待されている。



ワカメの集荷・ボイル作業